

開栓班

閉開栓作業を任務とする。被災翌日から閉開栓作業を開始し、3月18日からはJGA閉開栓隊の支援を得て約36万戸の閉開栓作業に取り組んだ。さらに、3月23日には閉開栓作業と並行して開栓作業を開始。3月26日にはJGA開栓隊が加わり、被災から37日目の4月16日には復旧対象需要家の開栓作業を完了した。

地震発生直後、第一次緊急停止となった3つの単位ブロックの閉開栓作業の準備を進めている最中に、津波被害によって港工場が製造停止となったため全エリアを供給停止することとなった。当夜は翌日からの閉開栓作業の計画立案と資機材の準備および人員確保に努めた。閉開栓作業は、本来、本支管の復旧が早いと見込まれるブロックから着手するが、今回は、全エリア供給停止となったため、ガス局近隣の復旧ブロックから着手した。

全155の復旧ブロックは1ブロック当たり2,000～3,000戸の需要家でくくられており、被災当日の需要家数は358,781戸であった。「地震等による供給停止ブロック停止時における閉開栓作業の手引き」(「JGA作成手引き」に基づいたガス局独自のマニュアル)を基に試算すると、閉開栓全工程完了まで相当の日数を要するものと想定された。

3月12日から職員および関連会社社員により閉開栓作業を開始し、3月18日からは、JGA閉開栓隊が加わり、1日最大約31,000戸の閉開栓を達成し、予定よりも大幅に早く、被災から15日目の3月25日に作業を完了した。

また、3月23日から開始された開栓作業についても、3月26日からJGA開栓隊の支援を得て、津波による被害が甚大な東部沿岸地区並びに被災当日の閉開栓需要家を除いた311,144戸を復旧対象として作業を進めた。途中、4月7日の最大余震により、開栓済の3つの復旧ブロック(5,643戸)が再度供給停止となったものの、1日最大約21,000戸というハイピッチで開栓が進み、被災から37日目の4月16日に当初設定した復旧対象需要家のうち避難勧告区域等を除き開栓作業を完了した。

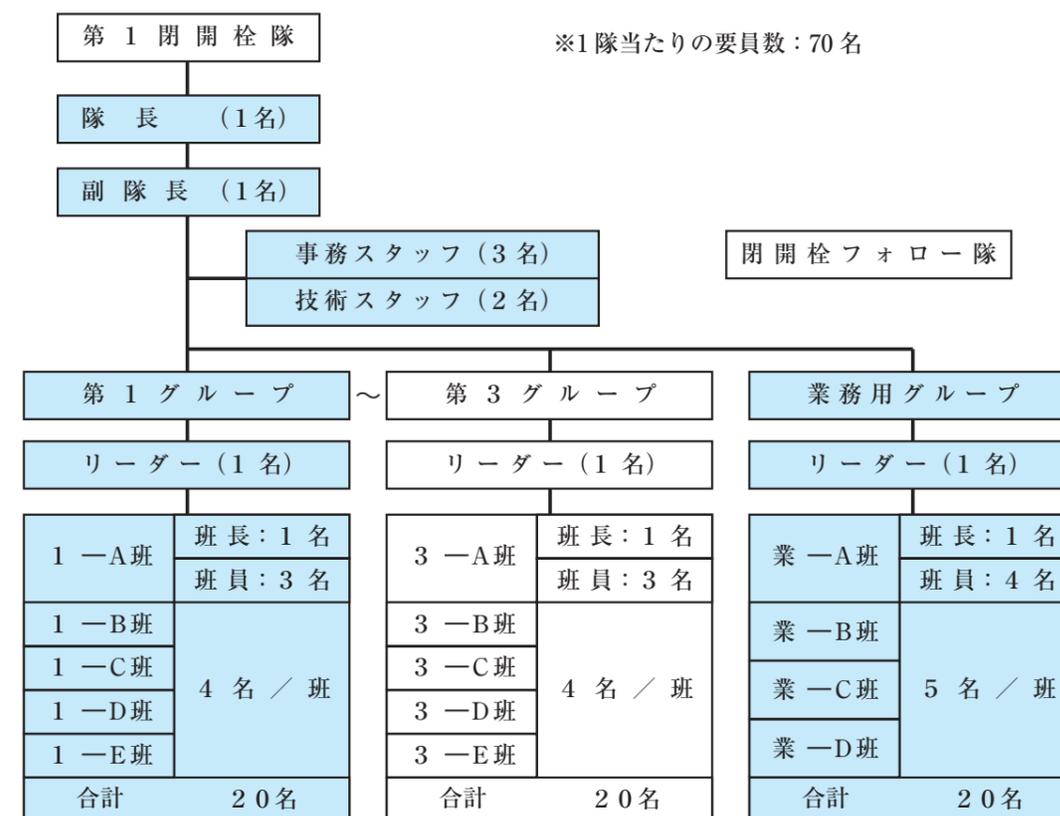
短期間での閉開栓作業を完了させるにはJGA復旧隊

の支援が必要不可欠である。しかし、1日当たりの復旧規模が大きくなるにつれ需要家固有の情報把握と伝達が難しくなるという課題も見えた。今後は、需要家形態に応じた役割分担を明確にし、かつ、各組織間の情報の共有化を図っていく必要がある。

■復旧のあゆみ

- 【3月11日】** 閉開栓作業計画作成
訪問カード出力を情報管理班に依頼
閉開栓作業人員確保
- 【3月12日】** 閉開栓作業開始
- 【3月18日】** JGA閉開栓隊受入式(200名)
JGA閉開栓隊による閉開栓作業開始
- 【3月23日】** 閉開栓作業開始(中庄)
- 【3月24日】** C2-20ブロック(住吉台地区)より低圧閉開栓開始
- 【3月25日】** 閉開栓作業完了(358,781戸)
JGA閉開栓隊解散式
- 【3月26日】** JGA開栓隊受入式(400名)
JGA開栓隊による開栓作業開始
- 【3月27日】** JGA内管調査班を修繕隊に設置
- 【3月29日】** JGA開栓隊追加受入(300名)
- 【3月30日】** JGA特約顧客開栓班を設置
- 【3月31日】** JGA大口開栓班を設置
- 【4月1日】** 仙台駅ビル開栓
東部沿岸地区調査開始
- 【4月2日】** ガス開栓専用ダイヤル(10回線)を開設
- 【4月5日】** C4-13ブロック一部(駅前アーケード街)開栓
- 【4月8日】** 余震によりC1-05、06、13ブロック供給停止
- 【4月9日】** C4-16、17ブロック(国分町地区)開栓
- 【4月16日】** 閉開栓作業完了(310,830戸)
- 【4月17日】** JGA復旧隊解散式
- 【4月20日】** 東部沿岸地区E1-02(多賀城地区)開栓
- 【4月21日】** 東部沿岸地区E1-06(白鳥地区)開栓

■第1閉開栓隊の編成

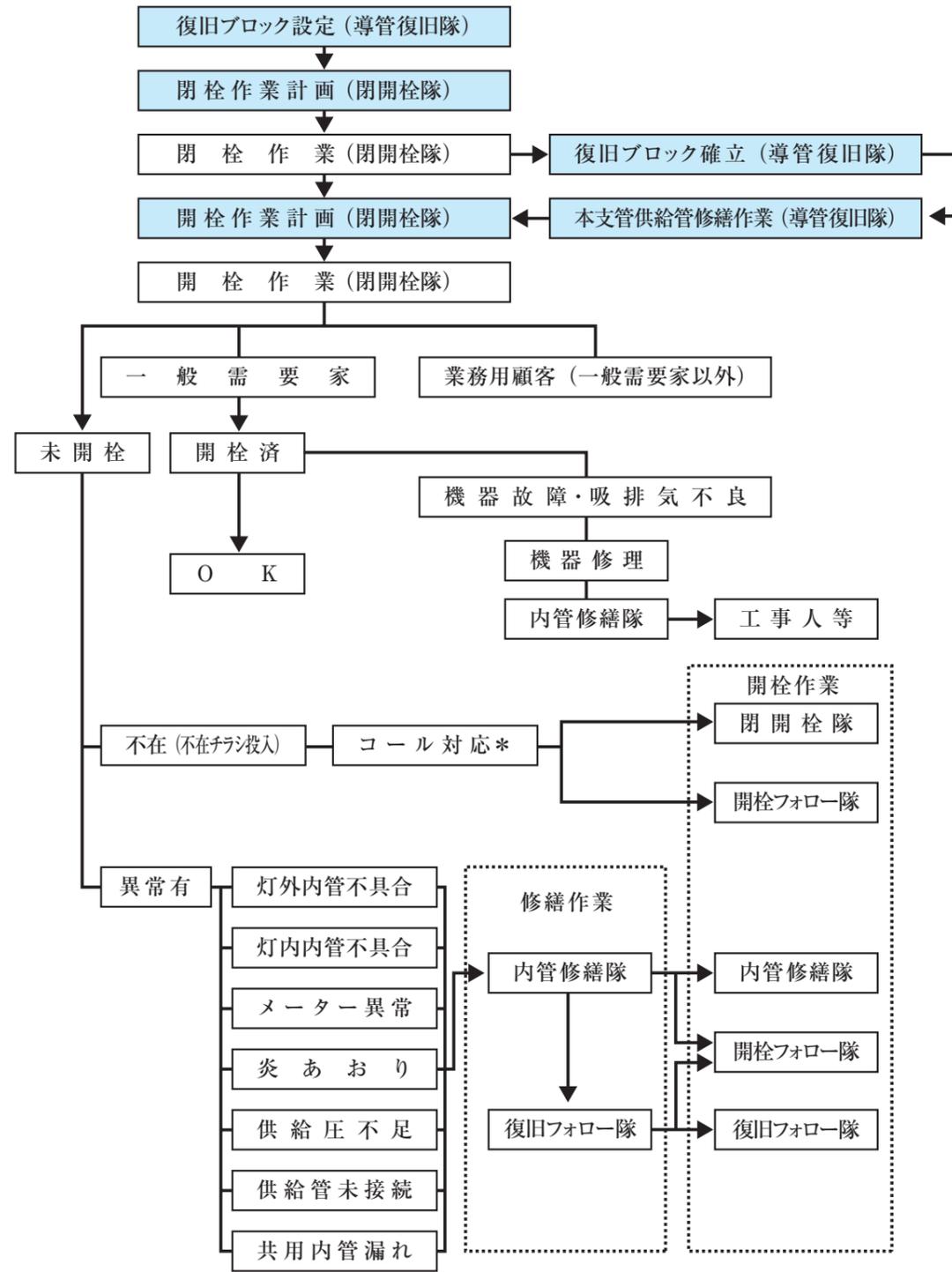


▲上図の第1閉開栓隊を開栓班(設備サービス課・他班からの応援)の人員で編成し、JGA開栓隊によって第2閉開栓隊以降が適宜編成された。隊長、副隊長、事務・技術スタッフにより閉開栓計画の立案、他班・JGAとの連絡調整、資材・訪問カード・地図の準備等を行い、4つのグループに分かれて各リーダーの指揮下で閉開栓作業にあたった。第1～第3グループが一般需要家、業務用グループが大口需要家を担当し、被災状況によって閉開栓が困難な場合の臨時対応等を行うフォロー隊を別途編成した。

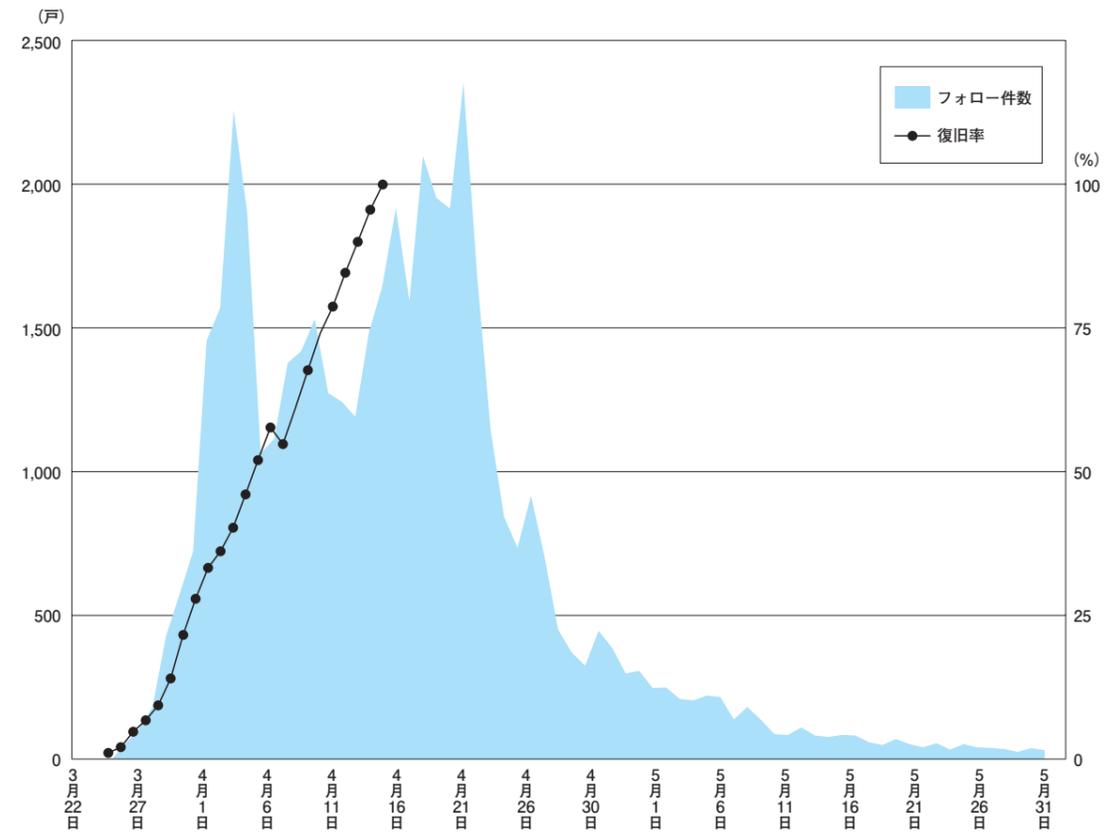
■業務内容

隊長 副隊長 技術スタッフ 事務スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・閉開栓および開栓の計画立案・進捗管理・結果報告 ・他隊との業務範囲の調整 ・開栓方法、閉開栓方法の調整・決定 ・復旧隊との閉開栓地区、開栓地区の調整 ・各グループの要員配置計画・作業予定を指示 ・開栓隊の資機材工具・訪問カード・地図等の準備・確認・補充
リーダー	<ul style="list-style-type: none"> ・需要家リストの管理、訪問カードの管理分担 ・各班へ閉開栓地区、開栓地区の割り当て ・開栓不可時の顧客説明と関連部署への連絡 ・グループの作業集計
班長 隊員	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問カードに沿って、閉開栓作業、開栓作業を実施 ・引継書類作成 ・被害状況調査 ・パージ作業・漏えい検査の実施(必要に応じて) ・班長は、自班の集計を行い、提出物と集計表をリーダーに提出

■閉開栓作業フロー



■開栓不在フォロー件数の推移



▲開栓作業の告知チラシ等



▲閉開栓作業の進行における最大の壁は、避難等によって多くの需要家が不在だったことだった。閉開栓時にはオートロックの門扉や屋内メーターが開けられず、やむなくガス管を切断する処置も行った。開栓時には立ち会いが必須であるため、ガス局全体で広報を行うとともに開栓班でも独自に告知ビラを作成・配布して、需要家の在宅率向上に努めた。写真は閉栓済みを示す使用禁止テープ。